

た。

葎線ぞいの林道を少し歩いて13時下降開始。少し下るとナメが出てくる。左俣とちがって少しは期待できそうだ。まず最初の2mをクライミングダウン。そのあとに5mクラスのが3本。いずれも簡単に下降でき、沢としてはそんなに印象深いものではないが、左俣があまりにも平凡であっただけに、一応気持だけはなぐさめられた。15:05二俣着。それから1時間程で今朝方出発してきた不動尊に着く。おみやげにアケビとヤマブドウをいっぱいもって。 (記・

出合・不動尊(8:05)——二俣(9:05)——沢終了(12:40)——下降開始(13:00)——二俣(15:05)——不動尊(16:00)

サケ沢  
板橋沢(仮称)

1982年9月15日

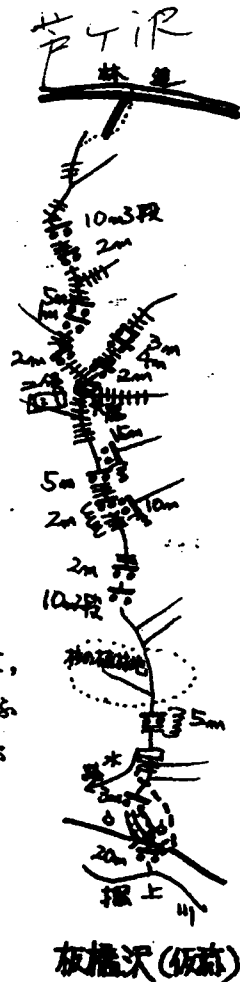
L

国道399号にかかる橋から沢に入る。しばらくはガツチリ石垣とコンクリートで固められた人工河川の中を進む。3mの小滝を越えた所でようやく自然の流れとなった。砂防ダムを越えると5mの滝。これは出だしから調子がよい。右岸にとりつくが、途中でホールドがなくなる。あてにしていた木の枝に手が届かないのだ。仕方がないので、シュリングの先に垂りがわりにカラピナをつけ、投げ上げてひっかけ、それを頼りにして越える。この先は明るくなり、平凡となった。

サルナシがいっぱいの実をつけている。まだ少し早い。部分的にうれたものを選んで口にに入れる。おいしい。

10m 2段の滝を直登すると、気持のよいナメがあらわれて、沢はまた面白くなる。快適に進んでゆくと、大岩が行く手をふさぎ、自然の砂防ダムができて、土砂が堆積している。ここが二俣で昼食をとる。

右俣には小滝が連なっていて興味をひかれるが、今日の目的は左俣だ。ずっとナメが続いている。しかし、もう沢幅もせまく、快適さは望めない。ヤブがかぶさってきた。葎線は目の前に見えている。このまま沢をつめてゆくより、植林地



の中をぬけてゆく方が楽のように思えたので、右手の小尾根上にルートをとる。

すぐ裏線の林道に出る。12時25分。 (記・西和文)

出合(10:00)——二俣(11:20, 11:50)——終了(12:25)

地獄沢  
赤川右俣

1982年7月11日

L

赤川滝から溯行開始。右岸を捲いて上に出た所でわらじをつける。すぐに橋。ここを過ぎると沢が明るくなる。右岸はまだ若い植林地だ。しばらく進むと、沢が大きく左へ曲がる。ここに行く手をふさぐような感じで岩壁が立ちふさがる。50m程の高さ(一番高い所で)があるが、岩はポロポロである。すぐに右岸にも岩壁。さきほどより小さく、すぐにナメがある。ほどなく二俣。右俣へ入る。

しばらくは平凡な沢筋が続く。水量はたいしたことはないが、沢の形状としては大きい。沢が平凡なためハイペースで歩ける。

小滝を越え、右に同等の水量をもつ大きな支沢をわけると、沢の様相が一変した。小滝とナメが連続する、ちょっとした廊下状のところである。ここを越えると沢もほとんど終わりに近い。やがて二俣。右の奥には30mのナメ滝がかかっている。左に入る。まもなく水がなくなり、やぶこぎ5分位で尾根に出た。 (記・西和文)

赤川滝(7:55)——二俣(8:30)——終了(10:55)

赤川右俣, 中俣(作田・中)